

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	臨床・社会薬学特別研究		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～4年次
必修・選択の別	選択	単位	14単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(病院薬学) 病院薬学、リバーストランスレーショナルリサーチ (社会・薬局薬学) 薬局、地域医療 (医療薬剤学) 医療薬学、臨床薬理学 (医療情報薬学) 規制科学、生物統計学、医薬品情報学 (医療開発薬学) 神経薬理学、医療薬学		
担当教員 (下線：科目責任者)	医		
	薬	(病院薬学) 教授 中川貴之、准教授 松本みさき (社会・薬局薬学) 教授 岡田 浩 (医療薬剤学) 教授 江頭伸昭、准教授 山田孝明 (医療情報薬学) 教授 伊藤達也、講師 阿部寛康 (医療開発薬学) 教授 今井哲司、准教授 山下 哲 (腫瘍薬物療法学) 教授 須野 学	
授業の概要	医療薬学、臨床薬理学、地域薬局、慢性疼痛、がん化学療法、医薬品情報・レギュラトリーサイエンスなど、臨床・社会薬学の専門分野について最新の研究や医薬品の審査プロセスなどについて発表・議論する。それらのテーマによる特別研究を行うことで、学んだ高度な知識と技術を活用できる研究能力を養う。		
到達目標	(病院薬学) 病院薬学に関する基礎・臨床研究の立案から研究デザイン、研究計画の作成、研究資材の調達、研究手法の修得、研究結果の解析、解釈、研究成果の報告まで一連の研究活動を実施できる能力を身につける。 (社会・薬局薬学) 臨床現場での疑問をもとに研究計画を策定でき、遂行、解析できる能力を身につける。 (医療薬剤学) 本特別研究では、医療薬学、臨床薬理学等に関する設定された研究テーマのもとで特別研究を行うことにより、高度な技術・知識を身につける。 (医療情報薬学) 薬剤師として医薬品情報リテラシーを通じて医療開発に必要なレギュレーションを修得する。 (医療開発薬学) クリニカルエクシジョンを研究課題に変換するための考え方、最終ゴールを臨床現場への還元とする研究計画の立案と実践、研究成果を考察してまとめる能力を身につける。疾患のメカニズム探索や新規治療戦略を提言するための、視点、情報収集能力、研究推進能力といった高度医療人材に求められる総合的なスキルを修得する。 (腫瘍薬物療法学) 薬物個別化療法において薬物動態に変動を及ぼす因子を列挙できる。		

授業計画	<p>(病院薬学) 病院診療記録や医療ビッグデータ等から得られた様々な臨床課題をもとに実験系を構築し、解決策や治療標的・予防/治療候補薬の探索、開発等の基礎研究を行い、その成果を臨床に還元するリバース・トランスレーショナルリサーチを行う。(中川貴之/松本みさき)</p> <p>(社会・薬局薬学) 各人のクリニカルクエストを基に、リサーチクエストとして整理、構造化して、実際に研究を計画を策定する。研究を実際に遂行し、データ収集、解析するプロセスを経験をする。(岡田 浩)</p> <p>(医療薬剤学) 教員が指導し、学生各自の研究内容について特別研究を行う。(江頭伸昭/山田孝明)</p> <p>(医療情報薬学) 医療開発におけるレギュラトリーサイエンスに関する研究指導を行う。(伊藤達也/阿部寛康)</p> <p>(医療開発薬学) 末梢神経障害や睡眠障害を中心とした神経疾患の発症機序解明を目的とした研究指導を行う。また、リバーストランスレーショナルリサーチの実践を通して、科学的根拠に基づき臨床的課題の解決策を提言できる高度医療人材の養成を目指した指導を行う。(今井哲司/山下 哲)</p> <p>(腫瘍薬物療法学) 薬物動態に影響を及ぼす因子として、薬物代謝関連酵素遺伝子及び病態について最新の知見を紹介する。(須野 学)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (研究課題の設定内容、研究の遂行状況) によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定しない。